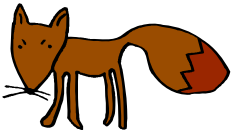
⑮ごうらく谷のきつね(岩壺)

岩壺から鉾立にぬける谷を、ごうらく谷という。この道のなかほどに、くろ岩という大きな岩があった。このあたりをひらはたの人が、通りかかったが、気がついてみると、くろ岩のまわりをぐるぐるとまわっていて、どうしても前へすすむことができなかった。それで馬からおりて、通っていくと、やっと通りぬけることができた。

それは、くろ岩のあたりに、ばかす力のある古いきつねがすんでいて、えらそうに馬にのって通ることをゆるさないからだといわれた。

そんなことがあってから、ここを馬で通る者は、かならず馬からおりて通るようになったということである。